

翻訳 (ver. 1.1)

1945年当時の米軍原爆調査団に関する3つのファイル ～ GHQ/SCAP 資料より ～

翻訳：吉田由布子 翻訳サポート：瀬川嘉之 校正編集：上田昌文
(市民研・低線量被曝研究会メンバー)

以下は、「国会図書館憲政資料室所蔵 日本占領関係資料」のうち、日本占領中の米軍内部の原爆調査にかかわる通信資料を訳したものです。GHQ/SCAP (連合国軍最高司令官総司令部) 資料から、1945年当時の米軍原爆調査団に関する3つのファイルを、一部を除いて仮訳し、時系列に沿って並べなおしました。概略のみ記載のものもあります。今後、必要に応じ、訂正、更新することがあります。冒頭の翻訳の version にご留意ください。【ver. 1.1 (2010年8月16日)】

憲政資料室におけるファイル請求記号とタイトル

TS00081 : Atomic Bomb Mission

AG(D)03537-03539 : Atomic Bomb Mission # 1

AG(A)00236-00237 : Atomic Bomb Mission # 2

略語説明

AAF20 = 第20航空軍

Assistant Chief of Staff, G-2 = 参謀第2部 (参謀第〇部の表現は以下同じ)

CINCPAC = 太平洋軍総司令官 Commander in Chief, Pacific Command

CINCAFPAC = 太平洋陸軍総司令官 Commander in Chief, Army Force Pacific Command

CG または COMGEN = 総司令官 Commanding General

Chief of Staff = 参謀長

FEAF = 極東空軍 Far East Air Forces

PHIB = 水陸両用もしくは上陸(作戦)用 Amphibious の省略形

TAG = 高級副官 The Adjutant General

USASTAF = 米陸軍戦略航空軍 US Army Strategic Air Force

WARCOS = WAR CORRESPONDENTS (?)

WAR DEPARTMENT = 米陸軍省

6桁の数字は、日・時・分を指すと思われる。数字の後のアルファベット Z、I 等は、どこかの現地時間を指すと思われる。Z は、グリニッジ標準時との指摘(『太平洋戦争メディア資料Ⅱ』)もある。

8月11日

From: CINCAFPAC 太平洋陸軍総司令官
To: WARTAG (Pass to Surgeon General) 米陸軍高級副官 (軍医総監に回送)
N: 110847

陸軍マンハッタン工兵管区レスリーグローブス大佐に、原爆クレーターでの被曝によってありうる有毒効果に関して何らか入手可能な情報を問い合わせ、そのすべての入手できた情報をこの司令部へ送るよう、要請する (C 32528)。

B.M.フィッチ (准将、太平洋陸軍高級副官) 承認 P.I.ロビンソン (大佐、副軍医総監)

8月13日

From: Washington
To: CINCAFPAC (For MACARTHUR)
N: W 48622 12th

グローブスはテニアン島のファレルに、もし使用することが必要なら、日本で使用できる3班の科学グループを組織するよう命じた。第一グループは広島へ、第二グループは長崎へ、そして第三グループは原子兵器分野における全般的な日本の活動に関する情報を入手するためである。広島と長崎へのグループは、影響が実際に存在するということに信じるに足る理由は我々にはないのだが、アメリカの軍隊が何らかの毒性的影響をこうむらないように、最初のアメリカの部隊と共にそれらの都市に入るべきである。ファレルと彼の組織はこの件に関して入手できる情報をすべて持っている。もしさらなる情報が必要であれば、誰か将校が彼を訪ねるよう提案する。

マーシャル

8月13日

From: COMGEN USASTAF
To: CINCAFPAC (Personal from SPAARTZ to MACARTHUR)
N: 1983

グローブス将軍は可能な限り早い時点で日本に入るファレル准将および科学者のグループに、広島と長崎における爆弾によるダメージを調査し、汚染された地域を見分け、負傷者の治療に対する医学的アドバイスを提供することによってさらなる死亡 (注: 米軍兵士のと思われる) を削減することを命じた。ブラックリストが実施された以降で、可能な限り早い時期に東京に到着するようこのグループを派遣することへの同意を要請する。

署名無し

8月13日

From: CINCAFPAC
To: CINCPAC ADV (For Farrell at Tinian)
N: 131155
Info: COMMANDING GENERAL SIXTH US ARMY

ワシントンからの無線 W48622は、以下のことを伝えている。日本で使用する3班の科学グループを貴官が組織していること、原子兵器からの有毒な影響が実際にあるとは考えられないにしても、そのような影響を最初に進駐する部隊が蒙らないよう、広島と長崎へのグループはその部隊と共にそれらの都市に入るべきである (CX33197)。現在ルソン島にいる米第6陸軍が、その地に入ることになっている。上記の地域に入る予定になっている第6軍に合流するために、日本の降伏後に最も早い日程で上記のグループがルソン島に空路で入ることを提案する。準備を支援するため、グループの人数と構成および何らか特別な手配がなされるべきかに関する情報がほしい。

CHAMBERLIN

8月14日

From: COMGEN USASTAF
To: CINCAFPAC
N: 1996 14th

ワシントンのグローブス将軍からの指令は、可能な限り早い時点でファレル准将を送り込むよう求めている。Dプラス26という貴官の提案は受け入れられない。科学者 Grace が上陸するのは、かなり遅くてもDプラス1と信ずる。こちらでの計画は、ファレルの部隊に記者団の一行を組み合わせ、こちらの司令部から飛行機で彼らを援助するということである。部隊と兵站支援は、10機の飛行機で運ばれるだろう。貴官から必要とする性質の援助はない。わかっただけで、着陸に使用される基地、日付と時間を直ちに返信することを要請する。

スパーツ

8月15日

通信隊メッセージ
From: CINCAFPAC
To: COMGEN USA STAF
N: 150617

可能な限り早い時点で、科学および報道の一行が日本のどこかの地区に入るのが許可されるにしても、最初の占領部隊と一緒にもしくはそれに続いてであって、何回も入ったりその前に入るのは許されない (CX33666)。東京地区で科学者たちが上陸するのに使う基地と日付・時間は、陸上偵察後まで決められない。すべてのプレス発表は私の司令部を通して行われるようになる。これは貴官の1996に関するものであり、上陸について要請されているすべての基地、日付、時間に関してではない。

S.J.CHAMBERLIN、G.S.C 少将 参謀第3部

8月15日

From: CINCAFPAC
To: CINCPAC ADV (For Farrell at Tinian), COMGEN USASTAF
N: 150623
Info: CG SIXTH ARMY, COMFIFTH PHIBCORPS

長崎と広島向けの両科学グループがルソンに来るのを示唆している我々の無線131155は、変更された (CX33669)。以下は日本の中の適切な目的地に科学班が早く着くことを確実にするために提案された処置である：(1) 日本の原子研究を調査する班は飛行機か船でテニアンから直接東京に向い (移動は本司令部と協力すべきである)、マニラからの科学者たちの活動を調整するべきである。(2) 長崎向けの班は、マリアナから第5上陸部隊に随行する (3) 広島向けの班はマニラに飛び、以前に提案したように、ルソンからの第6軍と共に展開する。これはまた、すべてのグループを東京に送ることへの同意を求めている USASTAF の無線1983への返答でもある。

S.J. CHAMBERLIN

8月15日

From: CG USATAF (スパーツ)
To: CINCAFPAC INFO CINCPAC (Personal to MCARTHUR)
N: 2138

貴官の搬送メッセージ120、131820 Z CINCPAC ADV、テニアンのファレル向けに関して。広島・長崎向けの科学グループをルソンに送るためには、ここを8月17日頃に発つのが望ましい。グループ (注：複数形) は総勢28人で、16人の将校と12人の下士官から構成される。通常のサービス以上にこれらのグループを援助する特別の手配は必要ない。彼らは必要な科学機材についてすべて持っている。8月14日の私のメッセージにあった、使用基地、上陸日についての情報を貴官が出してくれたらすぐに、40人のグループ—将校、下士官、民間の科学者—を日本に送ることが提案されている。このグループはファレルを長とする小さい司令部を有し、また原子分野における日本人の活動と知識に関する情報を確実なものにし、また原子エネルギー開発に使用できる鉱物に関し日本領土における鉱物資源を調査するための特別グループがある。上記の活動を可能な限り早くスタートさせることが必須である。

署名無し

8月17日

From: CINCAFPAC
To: CINCPAC ADV, COMGEN USASTF, COMGEN SIXTH ARMY, COMGEN EIGHTH ARMY, COM FIFTH PHIB CORPS

最近の無線、この件が交錯していた (CX34629)。以下の配置の承認 (acknowledgement) を求める：長崎向けの16人の将校と12人の下士官による科学グループは、マリアナからの第5 PHIB 海兵隊に同乗する、広島向けの16人の将校と12人の下士官による科学グループはフィリピンからの第8軍に同乗する、ファレル将軍のグループは本司令部の決済がおり次第東京に移動する。本発送以前に受信した、この件に関する最新の無線は USASTAF 無線2138で、我々の150623と矛盾している。

CHANBERLEN

8月18日

From: COMGEN USASTAF

To: CINCAFPAC、Info COMGEN AAF 20 (Pass to Farrell at Tinian)

N: 180759 Z

貴官の CX33669、150623 Z、CINCPAC ADV(For Farrell at Tinian)および COMGEN USASTAF 宛、および Nr. WQE1 151032 Z の CINCAFPAC 宛に関して。原爆プロジェクト科学部隊の 1 プラス1.2ポンドの機器は現在 Monitor に積まれている (LSV5)。これは貴官の CX33669 にあった、第2班である。第3班も同じメッセージに関連して、この班がルソンに着陸に際して使用する基地、部隊が出発する日付を求める。この班の科学者は28人で、荷物は2800ポンド、機器は300ポンドであり、第6軍と共に乗り込む。第1班の同じメッセージに関して、伊江島を経由し、東京班の科学者 H FMXK と共に、D プラス1 (の日付) に1KQL C-54 便が東京地区へ着陸できるよう出発許可を要請する。この配置は本司令部の McCrary 中佐との会議において、A-3 FEAF ADVON によって以前に同意を受けている。

署名無し

Note: 下線部の校正が要請されている。

*このメッセージは情報用に CG FEAF に再発送するため
通信センターに回送される。*

8月18日

From: FEAF

To: CG FEAF ADVON FEAF ACTION, CINCAFPAC CG USASTAF CG 54 TROPICAWG

N: AX 82874 18th

本日テレコンで、USASTAF のパワーズ将軍は原爆科学班をルソンにある基地に送る許可を求めた。この班はブラックリストのときに第6軍に同行する。USASTAF はさらに、C-54の東京原爆班が伊江島へ出発できる日付がいつかについての情報を求めている。当地での理解は、このフライトは既に貴官たちと取り決めされており、D プラス1以降のスケジュールが決まっているということである。ルソンと琉球の基地を特定し、さらにこれらの班の到着の日付を、本司令部の USASTAF に直接、情報を返答することを要請する。

署名無し

8月19日

From: CG 6TH ARMY

To: CINCAFPAC

N: K 13871 18th

貴官の CV34629は受領し、承知した。Vac は、マリアナからの第一段階の部隊と共に16人の将校と12人の下士官による長崎向け科学グループを乗せるよう指令を受けた。グループは9月1日に先立ち、積み込み指令のため、グアムで第3海兵師団司令部に報告するようアドバイスされるべきである。

KRUEGER

9月6日

From: CINCAFPAC ADV

To: WARCOS

N: CA51736

ファレルよりグローブスへ。貴官の・・・・・・に関して。海上から長崎に入る部隊に同行する班は9月12日に到着すると予想される。広島に入る陸上部隊に同行する班は、10月中旬まで到着が見込めない。予備的調査のために広島に向う班についての承認をいま当地で受けたところである。この部隊は9月8日に広島に行き2日間の滞在を予定している。我々は測定機械を持ち込むつもりである。同行するGHQの人員は救援用の12トンの医薬品を持っていく。広島での予備調査が完了したら無線で報告する。我々はいま、広島で医学的および科学的調査を行っていた日本人の公式報告の翻訳草案を読み終えたところである。報告は爆発から6日目と10日目に行った検査に言及している。(翻訳はいまタイプ中)。事実上この報告は、ほとんどの犠牲者は爆風と建物の倒壊によって死んだと述べている。第二の重要な死因は輻射熱とその後の火事から来た火傷であった。ローリッツェン検電器での調査では、爆発から11日後には爆心近くのどの地点でも許容量以下の値しか示さなかった。金属と骨からのいくらかの放射能の検出は、爆発時に中性子が放出されたことを日本人に示した。日本人は、現在では地上に危険な放射能はないと結論付けている。爆心近くの陸軍連隊場の地面では植物が発芽し、成長しており、彼らはその地で野菜を育てるのに放射能の問題はないと結論付けている。死者は依然として継続すると予想されているが、その数も死因についても触れていない。日本人の報告は、白血病ではなく白血球減少症を伴う死亡が依然続いていることを述べている。そうした死亡者の規模について報告書は述べていない。ノランとモリソンはこの報告を、死亡は爆発からの即時のガンマ線によるもので、地面に堆積した放射能に起因するものではないと解釈している。以下は1945年8月13日付の日本人の公式報告書からの引用である。「犠牲者の原因。死因はおおまかに次の2つの項目によるものである。(1) 原子爆弾によって生じた爆風で倒壊した住居とその結果生じた火事によるもの、および直接爆風に接した結果死亡した人々。(2) 爆弾からの放射線による傷害で死亡した人々。しかしながら、(1)で記載した死亡者の大半は同時に放射線でもいくらかが死亡したと考えられるが、詳細は入手できない。傷害は両方の原因によって生じていたが、犠牲者の多くは火傷を負っていた」(引用終わり)。日本人の報告の詳細な検証は我々の訪問と、期待される今後の日本人からの科学的報告に待たねばならない。上記を見込んで、貴官に必要な上記の報告を使うことが、日本人からの公式報告という我々の情報源(sources)を枯渇させるように働かないよう期待している。

ファレル

9月6日

米陸軍太平洋総司令部 チェックシート
From: Mil Govt Sec (軍政局)

1. 赤十字のジュノーが広島のリルフィンガーの電報を持ってきて、次のような支援の必要性を訴えた。
 - a. 広島で10万人の日本人が死に続けていることを調査するための科学的医学調査団の派遣
 - b. 現地で足りない白衣、手術台、火傷の軟膏、サルファ剤、血漿などの医薬品や設備
2. ファレルが1、2日中に必要な調査団を用意する。ファレルの部隊はこうした調査のために米本国から派遣されており、早くその地に入る手段を探していた。赤十字からのアピールは広島地区に入る良い機会である。
3. 現在横濱に1万人、30日分の医薬品の備品がある。1の要求を満たす量である。
4. 人員と医薬品をその地域に送り届けるのに呉の飛行場が使える。呉軍用飛行場の使用可能性については日本政府からGHQへの無線(文書C)を参照
5. 次のことが薦められる。
 - a. 添付(A)の日本政府宛の文書にサインし、送ること
 - b. 添付(B)の第8軍宛の文書を高級副官(Adjutant General)がサインし発送すること(添付文書、A、B)

9月7日

From: CINCAFPAC ADV
To: COMGEN BOMBWING 313 TINIAN – Pass to Kirkpatrick
N: CAX51746

070417ZのCINCPOA ADVからのメッセージを参照した。050331付けのAPCOM5157の記録はこちらにはない。060222付けのAPCOM5148は昨日ここで受け取り、直接グローブスに返事した。ファレルはグローブスの決済があれば、パーソンズの解任に同意する。

ハロルド・フェア 承認 ファレル

9月7日

GHQ 軍医部チェックシート
AG 210.453

1. 指令No. AG091、GHQ、AFPAC、1945年9月6日付け、件名：広島救援 にしたがって、ファレル准将のもと専門家のグループが原爆の効果を調査する目的で広島に向うことが正式に決定された。
2. 以下の人員がこのグループを構成することを要請する。以下の人員に1945年9月8日から30日間有効のTDY(注：temporary duty 原隊を離れた一時的軍務)を発するよう要請する。

ファレル、ニューマン、ウォレン、マッシュューズ、マクレナハン、ノラン、セイクウィッツ、モリソン、シーバー、ペニー
3. さらに、以下の将校がこのグループと共にTDYに配属される。

オーターソン、フリック

9月7日

上記のメンバーについてのマッカーサーの指令書 AG 210.453 AGPD 指令

9月7日

WARCOS

From: CINCAFPAC ADV

To: COMGEN BOMB WING 313 (Pass to Kirkpatrick) – Info

N: CAX51748

ファレルよりグローブスへ。もし、調査結果が放射能の影響について適度に好ましい状態を示していたら、ここで我々の広島予備的調査の結果を正式に公表することについての承認を要請する。もし結果が明らかに好ましくない状況であったら、特別な再検討と決済のためにワシントンに転送することができる。こうした行動は、現在の歪んだ状況を解決するのに役立つであろう。

新件：以下の追加データは私の CA51736を補足するものである。日本人が8月20日から31日の間に実施した医学的調査に関する、日本人の広島調査隊の第二報告の口答翻訳が今日手に入り、ウォレンによって検討された。日本人は、脱毛と血液疾患が、爆心から半径2キロ内にいた人々に発生していると述べている。現地の500床の病院では、患者の半分の特異な症例の状況は、調査時点で放射線障害の後期段階の症状を示している。第一週以内の急性死亡あるいはそれ以後死亡した人々の症状経過には重篤度の違いはあるが、要約すると以下のような特徴がある：吐き気・嘔吐と下痢（通常出血性）は最初の4日以内に発現し、通常、死亡時まで続く。それらは cachexia（注：悪液質—慢性疾患または情動障害の経過中に起こる全身的な体重減少と、るいそう（注：急激なやせ））の一因となり、支持的な治療を妨げる。爆発から10-14日後に脱毛が現れた。出血斑、口中の壊死性のアンギナ、進行性貧血、非凝固性の出血、白血球数の不変の減少（500未満）、血小板低下などが2-3週間以内に発生した。剖検によると著しい肺水腫、副腎の萎縮、扁桃の壊死、腸管の浮腫、大腿骨の上3分の1での赤色骨髄（再生もしくは出血）、9時間後の凝固形成不良を示した。日本人の臨床診断は出血性素因で、予後は大変悪い。日本人病理医の結論は、骨髄が急速に傷害を受け、機能することができなくなったというものである。日本人の調査団は白血球数が500以上の者には治療を勧めている：鎮静、休息、肝油、および他の栄養物と支持的療法、出血を止めるためのカルシウム液、自己輸血。彼らが提示しているデータは、提案されている治療の利益があるかどうかの証拠を示していない。これに係る人数のデータはない。ウォレンは、データが示しているのは、これらの発見が爆発時の大量のガンマ放射線の1回の被曝の結果によるものであると信じている。限定された半径内の症例の分布はこの報告書の地図に示されており、日本人調査団が地面に許容量以上の放射能を発見できなかったのは、このことを支持している。放射能に関する8月15日の科学的報告の第二部は、以下の発見を含んでいる。引用「1. 現在(8月15日)、爆発地域内では放射能の増加が認められるが、人体に障害及ぼす程度ではない。2. 爆発直後、人体に障害を与え得る放射線の量が存在していたか判定できなかった。また実際に放射性物質が存在していたか、および人工放射性物質が生成されたという仮定は証明できなかった」（引用終わり）。爆風と飛翔物や炎を生き延びた人々が、まだガンマ線の範囲内にいた可能性があるということである。遮蔽と距離は変動の説明となる。ウォレンは、爆弾が使用される前に、ガンマ線の効果は爆心下の爆風の範囲内にあると予想され、爆発の高度は、爆風の効果を増加させつつ地面に危険な量の放射能が堆積することを防ぐと予想されていたと述べている。日本人の報告はこれらの予想を確認するものである。日本の東京帝国大学

の放射線学者である都築正男教授のステートメントは、多くの人々が、以前の命令にしたがって町の人々の疎開の手伝いをするために爆風時に広島で働いていた、ということを示している。これらが、多くの傷害を負った疎開要員ということであり、さまざまな新しい発表が示しているような、爆風の後に入ってきた人々ではないのである。

ファレル

9月8日

From: COMGENBOMWING (By Kirkpatrick)
To: CINCAFPAC ADV INFO SOSOTWAR DEPARTMENT MESSAGE CENTER (グローブスへ個人的に)
N: APCOM 5174

貴官のメッセージ CAX51772について ファレルに転送

1. メッセージ受け取った062000Z。プランは、2機のグリーンホーネットが、貴官の地区に072400に着くよう、071400までにテニアンを発つということである。以下の人員は君の調査団用。8人の将校、2人の民間人、11人の下士官。Wimberly と McKeldin は後の機で行く。

2. C54の積荷、推計7つ分が要求されている。移動を促進するために、すべてのグリーンホーネットを貴官と共に早急に戻すことが望ましい。

3. 貴官あての Comgen 8日のメッセージをチェック。1つはグローブスから緊急で、これはウォレンとフリーデルにもリレーされた。Osurldlxaes のコピーは今晚 C54で貴官に発送される。君の返答のコピーをパイロットに託してくれ。

4. グローブスの指示によれば、プロジェクトAの人員は君の希望で062300テニアンを発った。パーソンズは発っておらず、私のメッセージ050331Z 付け APCOM5117、Comgen 8日付けを通して要求したように、依然君の決済を待っている。君がグローブスの緊急の口上書を持っているなら、パーソンズは君に合流するが、彼の強い希望は可能な限り早くワシントンに戻ることである。

配布 ファレル

9月9日

From: COMGENBOMBING 313
To: COMGENAF 20 INFO CG USASTAF GUAM, CINCAFPAC ADV PASS to FARRELL SOSO
For Gloves WAR DEPT MESSAGE CENTER VIA WAR DEPT CHANNELS ONLY
N: APCOM 5194

(フリーデルの部隊についての情報。)

9月9日 (10日)

From: ファレルよりグローブスへ
To: 極東軍総司令官よりさらに WARCOS へ info 313 Bomb Wing Tinian pass to Kirkpatrick
N: CAX51813

私は広島の前備的視察から戻ったばかりである。市の上空300フィートから見た後、地上で詳しく調べた。その情景は完全な荒廃状態というものであり、航空写真では、この

街が事実上破壊され完全に平らになってしまっていることを適切に表わしてはいない。これは、爆弾の恐るべきパワーの恐ろしい証明となっていた。詳しいコメントは以下の通り。

爆心から半径1.25マイルでは、事実上あらゆるものが燃え、爆破されていた。半径2マイルまでは、あらゆるものが爆破され、いくらかが燃えていた。2～3マイルの間では約半数が破壊されていた。3マイルを超えるとダメージは一般的に軽微で、5マイルまでは屋根の損壊があり、ガラスの破損は12マイルまで見られる。約20のレンガ造りと鋼鉄製の建物は市の中心部にまだ立ってはいるが、すべての窓は吹っ飛び、内部も破壊されている。いくつかの橋は破壊されているが、欄干と裂けてちぎれた歩道を除けば、ほとんどの橋はそのまま残っている。個々の倉庫は支柱の範囲上に倒れていた。いくらか近くでは、その間にある丘のおかげで爆風から保護された。軽いシェルターは穴状になり、電車は脱線して燃え、自動車の屋根には穴があいていた。火事が、約4マイル離れた山の上の森で始まった。

白い着物は、暗い色の着物より火傷からの防護となっていた。暗い色の着物を着ていた多くの人は火傷を負い、近くの人でも明るい色の着物を着た人は火傷から逃れた。暗い色のところは焼けた後があり、明るい色のところは残っている。大木が根こそぎになり破壊されていた。1.5マイル離れた病院の布の寝具は放射熱で焦げていた。

すべての日本人当局者がサービスと情報提供に非常に協力的であった。ある参謀将校(スタッフオフィサー)は爆撃とその効果について詳しく書き記しており、彼の記述は、原爆の作用と効果に関する我々の知識とほぼ同じであった。投下日の午前10時、さらに午後1時と2時の間に雨が降った。ある陸軍本部の兵士はすべてが犠牲者となった。

日本の公式報告は、死者は7万から12万で、負傷者は7万5000人から20万人としている。6万8000の建物が破壊されるか損傷を受け、これは街のほぼ90%にあたる。彼らは死亡者が今も1日に約100人いると報告している。

ウォレンの予備的報告は以下の通り。以前送った日本人の報告の要約は、1回のガンマ放射線量からの臨床的影響については、本質的に正しい。貴官に報告したように、ウォレンとその部隊は貧血と脱毛の患者10人を検査した。彼らは血球数の低下も示している。

ウォレンと部隊は、ほとんどが放射線からの遅発効果を示している280人の患者を収容している2つの大きな病院を調査した。犠牲者で最も多いのは、おそらく爆風、飛散物(missiles?)及び火事からであろう。実際の数と比率はおそらく決して分からないだろう。7万5000人以上が何らかの傷を負い、多くはさまざまな原因で死亡している。放射線による死者と負傷者の数は不明だが、予備的調査では、負傷した生存者はここにはわずかな割合しかいない。負傷したもののほとんどは、治療のために周りの都市に散らばってしまったのである。

ウォレンは、予備的測定では、爆発地点の下あるいは、地上、道路、灰またはその他の物質のいずれにも測定可能な放射能は発見していない。地元の医療施設と医師はほとんど全滅し、現在の施設と職員は極度に貧弱で限られており、混乱している。

今後の調査にはかなりの時間と、我々の人員と協力することになっているGHQの軍医(オーターソン大佐)が調達してくれる施設が必要となるだろう。ウォレン、ノラン、オーターソンおよびフリックは調査のためにあと2日間残る。私は数日中に長崎に行けると期待している。

9月10日

From: COMGEN BOMBWING 313 (カークパトリック)
To: CINCAFPAC ADV (Pass to Farrell)
N: 090622 Z AOCOM 5262

APCOM 5262。貴官宛の050055 Z のメッセージ、APCOM5111を見てくれ。Ofstie は3人の非常に優秀な身体ダメージの専門家を彼の部隊から貴官の部隊に配属することを希望している。パーソンズと私は、承認するよう薦める。グローブスは、最後の機でこの人員が君に届くよう、私が貴官からの委任を受け、実行に関して彼に助言することを指示している。早期の実行が不可欠。

配布 ファレル

9月10日

From: GHQ CINCAFPAC ADV
To: COMGEN BOMBWING 313 カークパトリックに転送

ファレルよりカークパトリックへ：貴官のメッセージ APCOM5174について。
Serber と部隊が到着した。飛行機はテニアンに戻った。1機はまだこっちにいる。貴官の9月7日付覚書は、1日に2回届いた。3機のプラン、満足である。貴官のパラグラフ10に関し、返答は以下の通り：A, 返答は私が行った。B, ここでCS4が必要。C, 承認。D, 空路移動。E, なし。F, 貴官は9月15日頃本土へ戻れる。私も同じ時にグリーンホーネットに戻るかもしれない。G, 部隊も我々と共に戻れるかもしれないが、TSD に配属されるべきではない。H, ・・は必要。I, 特別な指示なし。

CA 51814

ハロルド・フェア

承認 ファレル

9月10日

From: CINCAFPAC ADV CA51817
To: CINCAFPAC MANILA

(ウェブスターより軍医団) この無線は3部 (CA 51817)

1. オーターソンはファレルに、それぞれ以下のように構成される原爆研究の2チームに、一人の病理医、中尉または大佐クラスの軍医将校5人の追加、2人の血液学の訓練を積んだ検査技師を要請している。
2. 第一チームは広島に行く (病理医を求める39の一般病院に関してはリーボウ中佐)
3. 第二チームは長崎に行く。

ウェブスター

9月10日

From: GHQ CINCAFPAC ADV

To: WARCOS Info 313 BOMBWING TINIAN カークパトリックに転送

N: CAX51816

ファレルよりグローブスへ。私は東京時間9月11日に2日間の長崎行きを計画している。我々はウォレンと部隊を広島近郊でピックアップし、彼らと共に長崎に行く予定。ウォレン、ノラン、Serber, Penny、およびその他の者はウォレンの部隊の残りの者と会い、詳しい調査の為に長崎に残る予定。私の現在のプランは、東京時間9月14日に発って米国に向かい、カークパトリックのテナンでの仕事が終わってれば、彼と一緒に連れて行くということである。ニューマンは日本でのすべての作戦が本質的に完了し、すべての人員が米国に戻る手続きが済むまで、日本に残る。広島での予備的調査の結果について、私のメッセージCAX51748の最初の段の質問についての答の受け取りを待っており、まだこちらでは何も発表していない。ニューマンと私は、今日、原子分野での日本の活動に関するファーマンの仕事の予備的点検のため、東京に行く。広島での我々の日本人当局筋との会議において、東京帝国大学の放射線学者である都築博士より、爆弾の爆発時に毒ガスが放出されたという可能性はないのかという質問が出された。この話を直ちに叩きのめすために、私は都築博士に毒ガスは放出されていないということを正式に是認(オーソライズ)した。私がこの情報をここで発表することが認められ、あなたがそれを米国内で発表することが非常に望ましいと私は信じている。

昨日の私のメッセージの補足は以下の情報である：広島に9000人いた軍人のうち、4000人が死亡し、3000人が負傷し、わずか2000人しか逃れられなかった。

ファレル

9月11日

From: GHQ CINCAFPAC ADV

To: WARCOS Info - 313 BOMBWING TINIAN (カークパトリックに転送)

ファレルからグローブスへのメッセージ。天候が悪く横浜に戻らざるを得ないため、今日長崎には着けない。明日、再度試みる。 CAX 51849

ハロルド・フェア

承認 ファレル

9月11日

From: CG BOMBING 313

To: ACTION CINCAFPAC ADV

N: APCOM 5379 10th

以下のメッセージ091553 Z 付け W61945をグローブスからファレル宛で受け取った。
“W61945、 071037付け CAX51748の件。45年9月12日12時前でなければ、貴官の広島予備調査の結果において好都合の情報を正式に発表するには何の障害もない。

配布 ファレル

9月12日

From: GHQ CINCAFPAC ADV

To: WARCOS Info - 313 BOMBWING TINIAN (カークパトリックに転送)

ファレルからグローブスへ。東京時間9月12日、またしても天候が悪く、今日長崎には行けない。明日、再度トライすることを期待してくれ。貴官のメッセージは、ニューマンに渡す。9月15日までは“CINCAFPAC ADV Pass to Farrell, Atomic Bomb Mission” に送られるべきである。CA51875

予備的調査には、長崎の港での爆風による船の損傷を含む。

ハロルド・フェア 承認 ファレル

9月12日

記者会見 (東京)

トーマス・ファレル

1945年9月12日 (東京)

我々は、広島での予備的調査を行なった。我が医師団は、原子爆弾の爆発によって傷害を受けた人々のさらなる研究のため、広島に留まっている。物理的および人的な影響 (effects) の詳細な研究が、この爆発結果の真の状況を得るために、これからも継続されるだろう。

放射能が存在しているかどうかを判定するために、我々の科学者によって街の詳細な測定が行われた。測定可能な放射能は、爆心下あるいは地上のほかの場所、道路、灰の中、その他の物体の上にも、なかった。

過去3年にわたり本計画の医学部門主任であり、放射線学分野の専門家である、ニューヨーク、ロチェスターの医療部隊のスタッフ・ウォレン大佐が、負傷者の予備的チェックを行った。これらの調査は今後も続けられる。

ウォレン大佐の予備的結論は以下の通りである：

広島での大半の負傷者は、おそらく爆風、飛散物、そして火事によるものである。実際の数とその比率は、おそらく決してわからないだろう。もちろん、多くは爆発の初期の効果により死亡するだろう。ウォレン大佐と彼の部隊の医師たちは、放射線によって生じることのある症状を示している多くの患者を検査した。ウォレン大佐の意見は、放射線の影響を受けたこれらの患者は、爆発時に大量のガンマ放射線の1回の照射を受けたことによるものであり、危険な量の放射能が地面に堆積したために生じたものではない、というものである。彼の結論は、爆風のとき、影響を受けた人々がいた位置に関して得た情報、および、広島での爆発に関連したニューメキシコでのテストからの結果に基づいている。ウォレン大佐は、もっとずっと高い高度で爆発したので、多くの放射能が地面に堆積するのを防ぎ、同時に、この兵器の爆風効果を高めたであろうと信じている。爆風、飛散物、あるいは炎を生き延びた人々が、それでもまだ、爆発時のガンマ放射線の比較的限られた範囲内にいた可能性があった。彼らのうちのいくらかは、建物やその他の障害物によって爆風と熱の効果から保護されていた可能性がある。

この爆弾は主として爆風兵器 (blast weapon) としてデザインされており、熱と光の二次的効果をもち、使用されるその高度で、爆発の瞬間に爆発点の下の限られた範囲に放射能の効果があると予想された。そういう被害を受けた人 (any one so affected) は、この爆弾の一次的効果から深刻な傷害を蒙るであろうということが、さらに予想された。ウォレン大佐が検査した、放射能によるダメージの結果を示している患者の多くは、火傷かその他の傷もまた負っていた。

避難を助けるためにその地域に入ってきた人々が深刻な傷害をおったという話は真実で

あるが、しかしまったくの真実というわけではない。これらの人々は、以前に指令されていた疎開を実行するためにその地域に入っており、そこで爆風に遭ったのであった。彼らの多くが負傷者となった。その他の人びと、その多くは兵士であるが、彼らは爆発のおよそ10時間後にその地に到着した。それらの人々は、疲労を含む病的な影響を示したと、日本人による主張がなされてきた。9月9日、日本人の当局者は、これらのうちの誰も死亡していないし、誰も深刻な傷害を受けていないと述べた。これは、危険な量の残留放射能はないという、我々の専門家の意見を確認するものである。

広島での会合で、東京帝国大学の放射線学者である都築正男博士は、爆弾の爆発時に有毒ガスが放出された可能性があると考えていると述べ、確認あるいは否定を求めた。都築博士に対し、そうした仮定はまったくの誤りであるという、正式の声明を出した。有毒ガスなどは放出されなかった。

日本人は、8月15日付で、主に軍医による広島調査の公式報告を出しており、以下は彼らの報告の、米国の公式翻訳文からの引用である：

「現在（8月15日）、爆発地域内の放射能の増加が示されているが、人間に傷害を与えるような放射線量を測定することはできなかった。また、実際の放射性物質の存在、そして人工の放射性物質が生成されたという仮定を証明することはできなかった」

我々は、8月の15日に存在していた放射能の状態をチェックする手段は持っていないが、9月の9日には何も発見しなかった。

クレーターはなかった。建物を燃やす以上に地面が熱された証拠はなかった。爆弾がもっとずっと低い高度に設定されて行われたニューメキシコで生じたような、地面が融けたり、物質が溶けたりということはなかった。爆心直下の範囲は、物理的に、あるいは放射能的に、地面に特別の現象は示されなかった。

放射熱による閃光火傷は極めて壮観であった。約1.25マイル離れた地点の文字盤は、黒い文字が焼け、白い部分はそのまま残っていた。爆発地点から1マイル離れたビルの中では、窓の前のピロードで覆ったような椅子は、窓から入ってきた放射熱に曝された部分が焦げていた。

目標範囲の物理的破壊は、事実上完全であった。その情景は、まったくの荒廃のひとつであった。

広島で焼けた建物の総数は5万5000で、半焼は2300。爆風による破壊は合計6万8000で、爆風による半壊は3800であった。破壊もしくは損壊した建物の総数は6万8000、あるいは、街の中の全建物の80-90%であった。

爆発点から半径1.25マイルで、日本の陸軍司令部を含む地域は、完全に粉碎されていた。半径2マイルまでは、あらゆるものが吹き飛ばされ、いくらかは焼けていた。2から3マイルの間では、建物の約半分が壊れていた。3マイルを超えるとダメージは一般的に軽くなり、5マイルまでは屋根の損傷があり、12マイルまでガラスの損壊があった。約20の、構造がしっかりしたレンガと鋼鉄の造りのものはまだ市の中心部に建っているが、すべての窓はなくなり、内部は破壊されている。いくつかの橋は壊れていたが、近代的な橋のほとんどは、手すりといくらかの歩道が引っ張られて緩んでいたことを除けば、そのまま残っていた。ほぼ3マイル離れた地点の倉庫は埠頭の上に倒れていた。比較的密集していた範囲は、丘があったために、爆風から保護されていた。軽微なシェルターは陥没し、路面電車は脱線して燃え、自動車は屋根がへこんでいた。約4マイル離れた山の森の中で、火事が始まった。巨大な木が根こそぎになり、割れていた。

日本人は、広島9000人の兵隊のうち4000人が死亡し、3000人が負傷し、2000人が難を逃れたと報告している。死者には司令官とその部下全部も含む。

9月12日

From: GHQ CINCAFPAC ADV

To: COMGEN BOMBWING 313 テニアン (カークパトリックに転送)

このメッセージはファレルからカークパトリックへ。私のプランは、9月14日の朝グリーンホーネットでここを發ち米国に向かい、実現可能な最も早い日にワシントンに行くということを切望している。帰国準備のできているものとして、私をテニアンでピックアップしグリーンホーネットで米国に向うために必要な決済をチベッツと申し合わせてくれ。テニアンに留まるのはほんの短時間と予想される。9月12日の夕方長崎から戻るの、チベッツが望んでいるグリーンホーネットの交換はここでできる。貴官はテニアンでのプロジェクトが終了次第可能な限り早く米国に戻るべきである。ニューマンはチベッツの今日の質問についての返答で、ここから広島への次の旅は9月20-22日の間となるだろうと述べている。彼はその旅にチベッツが入るのを歓迎している。私はフリーデルが第6軍からの指示に従ってミンダナオに行くことについての、9月9日付の貴官の覚書中の情報を認識している。オフトジー (Ofstie) の3人が我々の調査団に合流するという事に満足しており、Ofstieにそのようにアドバイスしていた。貴官の覚書の項目13に示されていること以外に必要なことは現在は何もない。8月22日付 COMGEN BOMBWING 313の手紙への返答として提案された貴官の原稿は満足。貴官がここに到着したとき、手紙について相談しよう。

ハロルド・フェア

承認 ファレル

9月13日

From: COM . . . (カークパトリック)

To: Action CINCAFPAC ADV (Farrell Atomic Bomb Mission)

(De Silva について . . .)

9月14日

From: GHQ CINCAFPAC

To: WARCOS info 313th Bomb Wing Tinian pass to Ashworth cite CAX51948,

ファレルよりグローブスへのメッセージ

我々は今日、長崎の予備的調査を終えた。ここでは多くの点で、爆発の効果は広島に比べよりいっそう壯観で驚異的である。ひとつは、爆風の威力がずっと強力であるという印象である。半径2000フィート以内にある重厚な工業用建築物、ガスタンク、そして鉄筋コンクリートの建物の破壊は、より強力であることを示している。爆風と火事による巨大な鋼鉄物の破壊、爆風単独による魚雷の破壊は、巨大な量の爆風エネルギーが放出されたことの顕著な証拠である。あらゆるケースで鋼鉄の枠と建物は爆発地点から押し出されていた。より遠い距離にあった労働者住宅が破壊されていたということは、爆風のエネルギーが広島約2倍であることを示している。急な坂や峡谷を含むでこぼこの地形が防護となったが、爆風は峡谷で折り返し大なり小なりの程度で都市全体に損害を与えていた。爆風は主に工業地帯を襲い、居住区域の大半は多かれ少なかれ建っている。この事実のため、広島が平らになり死んだようになった一方、長崎はまだ生存しており、機能している。

爆発地点は、電信柱についた焦げ目の方向から決定された。おおよその地点はスタジアムの中心から北東に1000フィートのところである。日本人たちは、爆発は500mの高さであ

ったと言っている。これ以降、距離に関する記述はすべて我々が見積もった爆発直下地点からの距離である。爆風の予備的な調査では、完全に解体された日本人労働者の住宅（の地域）の半径は8000フィートである。半径2マイルまでの労働者の住宅は、地形による特別な防護があったところを除き、屋根は倒れ、壁は壊れていたが、部分的には建っていた。3マイルまでは、重い瓦によって屋根が損傷を受けたところが見受けられた。石膏やガラスによる損害はずっと遠いところでも見られた。薄いレンガ壁の建物、厚いレンガ壁のコンクリート、そして鉄筋コンクリートの素晴らしい（excellent）例が多く見られ、これらは現在調査中である。9インチの鉄筋コンクリートの壁は、2000フィートまでは破壊されていた。4000フィートまででは、レンガの煙突は移動し、ひびが入り、あるいはひっくり返っていた。1000フィート離れたところの刑務所は壊れていた。その壁は8インチのコンクリートでできていた。4000フィート離れた、北側の兵器工場の波板鉄板壁と屋根は吹き飛び、窓のサッシは押し出され、枠は壊れてひっくり返っていた。

これらの建物は軽いタイプの鉄骨建設であった。南側の工場も同様に破壊されていたが、これはさらに火事にもあった。北側の兵器工場の南側の県のオフィスからの地域は火事の被害が大きかった。町の北側の部分で焼けた地域は、長さ3マイル、幅6000フィートに及んでいる。北、東と西の丘は、7000フィートの距離で、熱線によって焦げていた。

日本人の公式報告は、爆発後、外から爆風地域に入ってきた者はみな病気になっているとしている。

ウォレンとノランは天候および交通の状態が悪いため、まだ広島から到着していない。船で来るウォレン（注：シールズ）の部隊は、まだ長崎に着いていない。病院船 Haven 号に乗船している海軍医は爆風のあった地域のいろいろなところからゴミや木材や金属を集め、放射能のチェックを行ってきた。集めた材料にはどれも放射能を示す証拠はなかった。レポートは、ウォレンが詳しいチェックを終え次第、できるだけ早く貴官に送る。

日本人たちは、割れたガラスを含む上部構造への軽い損害を除けば、港にいた船への破壊はなかったと報告している。爆発の時点、港には約100隻の船と小さな船が停泊しており、そのうちの3分の1は100トン以上の船であった。破壊的な波は起こらなかった。爆発地点の下に穴（クレーター）はできておらず、地面が融けることもなかった。日本人の報告は、港の近くの穴（クレーター）は、これ以前、7月にあった空襲の結果であるとしている。

以下は爆発についての日本の公式報告の簡単な要約である。半径1kmでは、外に居た者は火事で、中に居たものは落ちてきた材木や火事によって、すべて死んだ。半径1kmから2kmの間では、ほとんどすべての人が、激震もしくは熱によって死んだ。すべての建物は倒され、燃えた。2kmから4kmの間では、およそ半数の人が死に、半数はやけどや被災物で負傷した。ほとんどすべての建物が破壊された。4kmから8kmの間では、およそ半分が負傷し、半分は怪我をすることはなかった。約半分の建物が壊れた。8kmから15kmの間では、負傷したものは少なかった。ガラスは割れ、タイルはずれた。

丘の後ろ側の地域は防護された。報告された負傷者は、死者1万9743人、行方不明者1927人、負傷者4万0993人。爆風を受け焼けた家屋は1万1494、爆風を受けたが焼けなかった家2652、半焼150、半分吹き飛んだ家5291。事実上長崎のあらゆる家を含め、少なくとも5万軒の家が、ガラスが割れるなどの小さな被害を受けた。10の大きな工場が破壊された。19の学校と大学（カレッジ）が破壊された、ひとつの刑務所は完全に破壊され、燃えた。少なくともその他15の橋が破壊され、電話や電報、水の供給、鉄道および船などあらゆるものが大きな被害を受けた。日本人当局者による爆発の詳しいレポートは、我々の作戦上の知識から我々が予想していたものに極めて近いストーリーになっている。爆発時点の長崎の人口は約28万人と報告されている。負傷者は、現在一日に20人の割合で亡くなっている。日本人は、もともと負傷していないと見えた人々が、9月1日までにかかりの人数亡

くなっていると報告している。

私は、広島と長崎についてさらに詳しい内容を貴官に届ける予定である。私は、輸送手段が整い次第、飛行機で合衆国に戻ることを期待している。カークパトリックは、数日中に合衆国に帰国する予定。

ファレル

9月15日

From: ワシントン (グローブス)
To: CINCAFPAC ADV SOSO (原爆調査団ファレルに個人的に)
N: WX 64307 14th

広島と長崎で身体的ダメージの評価で、最初の率に関する作業をするのに君の調査団に適切な人員を得たと満足しているか？

TOO: 141944Z

配布 ファレル

9月15日

From: WASHINGTON (グローブスから個人的に)
To: CINCAFPAC ADV PASS TO FARRELL ATMIC BOMB MISSION
N: W64465 14th

軍医総監は、広島と長崎での原爆の早発及び遅発性の医学的側面の研究と情報を望んでいる。治療と防護という観点から、火傷、爆風、および血液、造血器官、出血性の素因、皮膚、特殊感覚、および神経系損傷に関する放射線の効果に関心を持っている。そうした情報を収集することは、純粋に医学的見地からと同時に、我々の立場からも重要である。私は、我々の医学チームの代表が主に人間に対する爆弾の即発的な放射線効果と爆撃地点での残留効果の可能性に関心があり、十分な病理学および臨床的研究を行うための人員と機器を用意していないかもしれないということは承知している。貴官あるいは GHQ AFPAC の軍医部は、任務上、上記の関心に関する完全な報告を調査し準備するために、軍医部を代表する特別な人員が必要か？ 写真を撮影し正確な医学・病理学的イラストを描ける能力のある Sath Medical Museum and Medical Art Unit がサイパンにあり、現地の軍医によって、その地区に出発させられるということがわかっている。ケーブルでの早急な返答を待つ。

署名無し

9月15日

From: GHQ CINCAFPAC ADV By Newman
To: COMGEN BOMBWING 313 For Kirkpatrick
For Ashworth from Kirkpatrick
N: 151325 Z

飛行機トラブルで遅れている。ファレルはATCで米国に戻りつつある。私はチベッツと共に週の半ばにはテナンに戻る。Del GentioとBayerは私の帰るのを待っている。アッシュウォースは行きたいところがどこでも、解任される。

ハロルド・フェア 承認 ニューマン

9月15日

From: CINCAFPAC ADV
To: WARCOS Info 313 BOMBWING TINIAN – Pass to Ashworth

ニューマンからグローブスへのメッセージ。ファレルはATCで9月15日0930に厚木基地を発った。目的地はハミルトン基地。・・・

ハロルド・フェア 承認 ニューマン

9月16日

From: SCAP
To: COMGEN TEN (Pass to Atomic Bomb Unit)

バーネット大尉のもとに13人の原爆科学班が沖縄から長崎に飛行中、17日に・・・。
日本人当局者（オーソリティ）は、11時頃大村基地に着くことを知らされている。長崎までの輸送は日本人が準備する。この部隊は長崎本部の第6軍に配属となる。

フィッチ 承認 チェンバレン

9月16日

マッカーサー命による指令書 (*未訳)

(関係部署に対し、下記の人々は調査の指令を受けているので便宜をはかるよう指示している)

ニューマン、ウォレン、オーターソン、ノラン、への広島・長崎の原爆調査
フリック 長崎調査

ボウリング

9月16日

GHQ チェックシート (*未訳)

ファイル No. AG 210.453 (16 Sept 1945)

From: Chief Surgeon To AG

上記の指令に基づく、軍医団よりの上記の5人に対する指示書

B.P.ウェブスター

9月16日

From: CINCAFPAC ADV

To: CINCAFPAC MANILA

(ウェブスターより軍医総監へ) オーターソンは、原爆の負傷者は死亡したり回復したりしているため、研究を完成させるための医学要員の到着促進が重要であるとアドバイスしている (CA 51984)。リーボウとオーターソンが早急に要請した。

ウェブスター

9月17日

From: CTG 55.7(AD? BYRD)

To: Action CINCAFPAC ADV (Pass to General Newman for Col. Kirkpatrick Atomic Bomb Mission)

沖縄情報。9月13日バーネット大尉のもとに13人が Atomic Unit に準備され、C-54 で沖縄から長崎に飛行中。バーネットは長崎第6軍に配属される。

配布 ファーレル (情報)

9月17日

From: HQ41 Info Division APO 41 Office of AC of S G-2

To: CINCAFPAC ADV (Pass to Farrell) Info USASTAG CG 313 BOMBWING

N: KWC 2979

フリーデルの部隊は現在フィリピンのサンボアンガにいる。9月30日頃発ち、10月3日頃呉に着く。作業を始めるのは5日頃で、おそらく10日くらいかかるだろうから、作業完了は10月15日頃となる。ウォレンに、以前彼が広島で入手した情報をフリーデルの班が使えるよう、伝達を要請する。

署名無し

9月17日

From: GHQ CINCAFPAC ADV
To: WAR DPT メッセージセンター (グローブスへ)
N: CAX52026

貴官の W-64465 に関して。ウォレンの原爆医学調査団は、直ちにできる限り多くの臨床的・病理学的・写真画像的証拠を得るため、GHQ AFPAC 軍医団顧問であるオーターソン大佐の情報源と合同させている。遅発性の血液疾患の死亡率ピークはどうかや30日頃らしく、一日に死亡する人数は減りつつある。他は軽快して救護センターから退院しつつあり、全国の手が届かないところに広く散らばっていつている。爆風例はすべていなくなっており、火傷の後期例は入手できる。各チームは現在通信隊の写真家を使っており、現在サイパンにいる医学的な撮影隊を要請しようとしている。陸軍の医学博物館や別の特別な研究用に膨大な量の試料と火傷、爆風、及び放射線に関する日本人の臨床データが得られる見込みである。遅発性効果の延長研究は可能な限り長くオーターソンのチームが続けることになっている。これはおそらく10月の終わり頃まで続くだろう。SGOの代表は、彼の目標を達成するのに間に合うようには着けないだろうと信ずる。GHQ軍医との相談では、適切な人員が現在この戦域で利用できることを示している。

新件：ウォレンは、東京にいる。バーネットとウォレンの部隊の残りは、まだ沖縄にいる。ウォレンの部隊が長崎に集中するよう、手配をしている。台風が移動を遅らせている。

ハロルド・フェア

承認

ニューマン

9月18日

From: CINCAFPAC ADV
To: USAFIK

貴官の将校、ロジャー・ファーマン大佐とロジャー・ニンガー中佐、ITEM MUNCH と BAKER を原爆分野調査団のために9月20日、東京から京城に赴くことの決済を要請する。(CA52060) がついたことが報告されている。使命は、以前日本に住んでおり、現在は京城に住んでいる5人へのインタビューである。訪問期間中の輸送の手配を要請する。部隊は東京に9月23日頃戻ってくるのが望ましい。

ハロルド・フェア

承認

イーストウッド

9月21日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (ニューマンより)
To: WAR DPT メッセージセンター (グローブスへ)
N: CA52141

長崎医学グループ全体が9月19日に長崎に着いた。予備的な放射能調査は全くネガティブ。改訂された日本人の情報では、長崎の死者数は以前報告されたものより2倍くらい多くなっている。この情報は精査中。

新件：当局は、フリーデル指揮下の広島医学班が飛行機で広島に移動することを保証していた。おそらく到着は9月24日くらいであろう。

新件：カークパトリック、モリソン博士、Mastick 技師と O'keefe 技師は東京を発ちテニアンに向った。この日に彼らはカークパトリックと共に米国に向う。

ハロルド・フェア

承認 ニューマン

9月21日

From: CTG 55,7 (For Warren)
To: General Newman and ABI unit for Delivery to DeSilva

Serber、Barnett による総合的モニタリング。Whipple は3タイプの機器を用いたが、放射能は示さなかった。ジープは1台しか受け取っていない。我々の作業の主要な部分は患者の臨床的、病理学的な調査となるようである。ノランに、次の旅のとき、現在東京にあるすべての機械を持たせるように。

配布 Atomic Bomb Mission – Action

9月21日

From: ワシントン
To: MacArthur For CINCAFPAC ADV
N: WX-67007

現在ファーマン准将の下で行われている原爆の医学及び科学的調査団、この一部はまだフィリピンにいと報告しているが、広島と長崎での詳しい調査を完成させるために、あらゆる援助を与えられることが必須である。この調査団によって完全で正確なデータが集められることは、我々の将来にとって、そしてあらゆる可能な知識の入手にとって、さらに日本の宣伝戦およびわが国の報道におけるそうした宣伝から来る間違った印象に対して闘うために、早急に必要である。ファレルが予備的報告は行ったが、我々は可能な限り早く完全な報告が必要である。

マーシャル

TOO: 202053 Z

配布 最高司令官、陸軍参謀長

9月22日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (ニューマンより)
To: WAR DPT メッセージセンター (グローブスへ)

イギリス軍からの希望について (*未訳)

9月22日

From: CINCAFPAC
To: CINCAFPAC Advanced

1. AFMIDPAC チームのメイソンとデコーシーは、輸送機待機中。天候不順
2. AFWESPAC チーム選択。輸送機待機中。AFWESPAC は病理学者手配できず。フレンチ大佐をこの任務に推薦する。

9月23日

From: WARCOS
To: CINCAFPAC ADV

貴官のメッセージ 67007、広島と長崎での調査を完成させるために医学及び科学的原爆調査団の援助を求める件 (CA 52223)。この使命に3人が、9月17日に沖縄から大村経由で長崎調査に向っている。飛行機輸送は、原爆調査団の13人をサンボアングから東京地区に運ぶため、9月21日に厚木基地からミンダナオに向って出発した。このグループは、広島での彼らの受け入れと宿泊について日本政府との申し合わせが完了次第すぐ、東京から広島へ出発する。

フィッチ チェンバレン G-3

9月23日

From: CINCAFPAC ADV
To: CG 41st Inf DIV

フリーデルの部隊は9月21日に東京でピックアップされ、広島に向う。

9月23日

From: Washington (グローブス個人より)
To: CINCAFPAC ADV (ニューマン)
N: WX 67530

もしかしたらハリケーンが原爆爆発の恐ろしい熱を生み出し、その結果原爆投下の半時間後に広島を火事が襲い、さらに数百人の犠牲者を殺したかもしれないという、アメリカンポストに引用されている伝道師ジェームス神父の報告を調査するよう要請する。

9月24日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (ニューマンより)
To: WAR DPT メッセージセンター (グローブスへ)

ジェームス神父の件。今のところまだ見つかっていない。(という話 *未訳)

ニューマン

9月24日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (ニューマンより)
To: WAR DPT メッセージセンター (グローブスへ)

貴官の WX67530 に関して。ジェームス神父の件 (CA52255)。ジェームスは東京におり、東京カトリック大学の哲学の教授である。ハリケーンという彼の話は又聞きで、元々は神父からで、彼は広島教会区司祭であるが、原爆で負傷したため、現在は東京のカトリック病院の患者である。爆風の後、司祭の家にはいた彼とその他の者が街を離れるため川を渡ろうとしたら人がいっぱい、それで何時間も不可能だった。爆弾から6時間くらいたって……

(説明続く *未訳)

ジェームスはバチカンに送るために、完全な報告を準備しつつある。このコピーをもらう手はずである。

ニューマン

9月24日

From: CTG 55.7 (For Warren)
To: Action Gen FLT (For Gen Newman) Pass to DeSilva

東京にあるペニシリンを全部長崎に送ってくれ。南北の道路と川の東西に沿って選択した地点の(放射能)の値は低い。最高値は、爆心近くの刑務所で0.02ミリレントゲン/時であった。13マイル北東は放射能なし。9月22日の無線にあったジープは受け取った。眼の試験片と検査データおよび日本の機器の校正のために、フリック大尉とコリンズ中尉を列車で福岡の九州大学に送る許可をほしい。これらの士官にノランと本橋少佐が複写機(reproducing instrument)をもち同行し、病理用試験片と臨床データを集めるのが望ましい。この要求は、九州大学と共に都築教授が解決することを提案する。このグループは、任務遂行のため広島の部隊と合流すべきである。長崎の作業は9月27日までに終わると見積もられる。イギリスの港湾及び技術調査将校のダニエル中尉が我々の部隊と広島に同行することを望んでいる。これに関する貴官の意見は？

配布 Chief of Atomic Bomb Mission – Action
Chief of Surgeon – Information

9月24日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (From Gen. Newman)
To: CTG55.7 (For Warren)

貴官の希望通り、フリックとコリンズが九州大学に行くことが承認された。複写装置はまだ入手できない。確保されたらノランとオペレーターが随行するだろう。プランは現在オーターソンに送られ、彼の部隊とジープ4台が26日にここを発って飛行機で広島に送られる。1機は貴官の為に26日の昼ごろ大村に着いて、広島に行きたければ、貴官とその他の人員を呉に着陸させる。フリーデルと部隊は27日の朝こちらを発ち、呉に飛ぶ。
新件：ダニエルを広島に運ぶ件はOKだが、彼は我々の部隊のメンバーではないことを伝えておく。

ハロルド・フェア

承認 ニューマン

9月25日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (From Gen. Newman)
To: CTG55.7 (For Warren)

9月26日、すべての飛行機が足止め。オーターソン、ノラン、都築、その他16人を運ぶ飛行機は27日の昼ごろに大村基地に着く。マイクロフィルム装置とオペレーターはノランに随行。これらの機の1台は、希望があれば貴官と小さい班を福岡に運ぶ。最近の台風で広島への全通信とアクセスが遮断された。広島は浸水し、水、電気、食糧もない。大野病院は破壊され、宇品の病院は1フィートの水に浸かっている。この状況と時間の経過のため、放射線病の患者は少ない。この10日間でこれが原因の死亡はない。フリーデルの部隊は、26日は東京にいる。1週間以内に広島に着けそうもない。呉から小さい船で広島に入る可能性を探している。もしできそうならこの方法を使いたいのか？ そうであるなら、誰のどのような使命を貴官は提案するか？ 量的な研究と遅発性の影響の研究をオーターソンに残して医学的プロジェクトとしての広島をあきらめることを貴官は提案するか？ フリーデルの部隊にどのような暫定的な配備を貴官は提案するか？

ハロルド・フェア

承認

ニューマン

9月26日

From: CINCAFPAC ADV
To: CINCAFPAC MANILA

(ウェブスターから軍医部へ) オーターソンは、原爆の研究のための写真家という彼の要求(ZA 6095)についての決定を求めている。Museum and Arts unit No. 5が第10軍に利用可能という情報はもらった。最も早い可能なアクションを信号で求む。

承認 ウェブスター

9月26日

From: GHQ AINCAFPAC ADV (ニューマンより)
To: WAR DEPARTMENT メッセージセンター (グローブスへ)

ファーマンとニンガーはここでの仕事を終え、まもなく大量の日本語の文書を持って帰国する。MUNCH がニンガーに随行し、残りはニンガーと共に、これらの文書を翻訳する仕事を継続するよう、当局が認めることを勧める。

ハロルド・フェア

承認 ニューマン

9月27日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (From Gen. Newman)
To: CTG55.7 (For Co. Warren)

長崎行きのオーターソン、ノランと部隊は天候のため足止め。9月28日に再度トライする。フリーデルと部隊は28日の14:30に東京に着く予定である。De Silva と本橋は状況を見極めるために、9月27日に広島に入ることを試みる。25日の我々のメッセージに、貴官からの悪い回答はもらっていない。

ハロルド・フェア

承認 ニューマン

10月1日

From: MAG 22 OMURA (For Warren)
To: ACTION GHQ AFPAC ADV (For Gen. Newman)

(Attention Atomic Bomb Mission)

悪天候のため大村で足止め。 ETD 1200 10 October

配布 Atomic Bomb Mission – Information

10月1日

From: COM CLUDIV 4 FOR COL WARREN
To: ACTION COM STW FLT FOR GEN. NEWMAN
N: 301007 Z

COM CLUDIV 4がウォレン大佐に送る。

COM STW FLT Gen. Newman および De Silva 東京 ABI 部隊に

オーターソンと部隊が到着した。ウォレンは天候のため足止めされている。広島に入る見込みを知らせてくれ。

ウォレン

配布 Atomic Bomb Mission – Action

10月1日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (ニューマンより)
To: WAR DEPARTMENT メッセージセンター(グローブスへ)

ミッションの現在の状態は以下の通り：ファーマンの仕事は完了。ファーマンと彼のグループはおそらく10月4日に米本土へ向け出発。長崎の医学グループは、本質的には作業を完了した。東京への戻りは天候次第。ウォレン大佐は今日こちらに戻り、貴官に彼の発見の概要を送ることを期待している。フリーデルとその部隊は東京におり、デストロイヤーで広島に向う輸送を待っている。ETA 10月4日。そこで1週間くらい必要。

CA52557

ハロルド・フェア

承認

ニューマン

10月1日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (ニューマンより)
To: WAR DEPARTMENT メッセージセンター(グローブスへ オッペンハイマーへ回送)

Serber よりグローブス経由オッペンハイマーへ。ガイガーカウンターを持って、雲の後ろを長崎の東海岸へ追跡した。最大強度は爆発地点の1マイルおよび1.5マイル東。ガンマ線量4ミリR/時。ガンマ+ベータは20ミリR/時。Penney は地面レベルでの圧力を2500フィートで80ポンド/平方インチ、4200フィートで15、1万2000フィートで1.4と概算した。距離は、爆発点(上空)からの半径距離ではなく、(爆心直下点からの)水平広がり距離である。

ニューマン

10月1日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (From Gen. Newman)
To: MAG 22 OMURA (For Warren)

貴官のメッセージナンバー301007Z の件。駆逐艦 が10月3日にここを出て広島に向かい、そこで不確定の期間留まる予定。フリーデルの部隊はこの船に乗っていくようにアレンジした。彼は、これまでに発見されていない新しいデータがたくさん発見されない限りは、広島での仕事は1週間以内に終わると感じている。広島へのアクセスおよび通信は依然として非常に難しい。情報として、De Silva の訪問で、市そのものではなく市の郊外のみが浸水したことがわかった。その他の状況は、ノランが知りえたものと本質的に同じである。本橋は、ノランが必要としている報告の完成を促進するため広島に留まった。本橋は完成した報告と共に10月3日には我々の東京のオフィスに来ることを約束した。

ハロルド・フェア

承認

Gen. Newman

10月2日

To: CINCAFPAC ADV
From:

ウォレン大佐、オーターソン、および4名が、10月2日 時頃、横田に到着。

10月2日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (From Gen. Newman)
To: MAG 22 OMURA (For Warren)

フリーデルと、Penny, Serber, Hageman, Allen, Varley を含む他の7人が今日飛行機で東京を出、呉に向かい、広島にはジープで入る。彼の部隊の残りは広島に向け10月3日の朝早くここを出発予定。彼は全員に作業を完了させ、遅くとも10月7日までにここに戻ってくることを期待している。新件：本土に向けたグリーンホーネットの出発予定は10月4日に一人、7日に一人、9日が最後の一人。君のグループの一部が日本を離れる準備ができていない限りは、最初の機の積荷は少ない。最初の機で離日できる君のグループが8人ほどの大勢であるなら、遅い移動を支持する。この飛行機に乗るために東京に戻ってこられる君の部隊のものがいるなら、人数の提案をくれ。もし君の返答によって、必要なら、ラウンドトリップで10月3日に大村に寄る。長崎グループの残りは、君が反対しない限り、10月7日に日本からの出発が準備できるだろう。もし君がそこでアレンジできるなら、東京もしくは大村から広島でフリーデルと合流することもできる。君の個人的希望も含め、上記のプランへのコメントを求む。明確な返答を。

ハロルド・フェア 承認 ニューマン

10月3日

From: HIROSHIMA (AACS)
To: GHQ FOR GEN NEWMAN ATOMIC BOMB UNIT
N: 022330 Z

広島の実地調査は悪天候のため、今日は不可能。明日を予定。作業は本日より開始。

配布 C Atomic Bomb Mission – Information

10月5日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (From Newman)

To: War Department Message Center (グローブスへ)

N: CA 52799

長崎の放射能は、真東の有明海 (ARIAKA BAY) に向かう狭い領域や西、あるいは北と北東、あるいは東と南東の5から10マイル (8 km から16km) 離れた地点に不規則に並ぶ周辺都市において検出され、南南東、あるいは南と南西では最初の山を越えては広がっていない。測定値は監獄の場所での高い値を除けば平均してバックグラウンドの2から6倍で、市内から東に2ヶ所高くなり、間で低くなる。高いのは2700m東或は南東の貯水池と8km南東の第2の谷で、バックグラウンドの10から50倍になる。貯水池のダムで最高値が見つかり、土壌サンプルを正確に測るのに必要とされる補正をしない場合に、爆発時に1時間あたり約4r (レントゲン) だったと推定される。貯水池の水には放射能がなく、泥のサンプルを採取した。ほとんどの放射能が爆心地周辺での中性子照射とその後市内からの熱による上昇気流で広がる塵や灰の結果として説明できるとウォレンは考えている。爆発から約3時間後より12マイル東の諫早に大量の灰や焦げた紙が降下した。爆心500m以内の真鍮、絶縁体の硫黄、骨等の物体の放射能がその地点での強い中性子照射を示している。同じ場所の土や路面等の放射能はずっと低いので、核分裂生成物からの放射能の寄与はあったとしても、かなり小さいことを示しているように思われる。土壌サンプルで立証できるかもしれない。以上の説明で危険な放射能クレーターの問題は解消する。

東京の日本人物理学者達は広島以南西で非常に低いにしても明確な放射能を見つけており、10月1日に長崎の周辺でもそのような放射能に到達した。市内の東にある最も行きやすい地域の貯水池へ行っているの、ウォレンはダムでの発見を明らかにし、3週間前に彼ら (日本人物理学者達?) が爆心地周辺で発見したことも確認した。日本人物理学者達はまだ放射能の出所についてははっきりとは確信していないが、人体に害がないことには同意している。ウォレンは地域全体に安全で、上陸地点や駐留地は要求があればいつでも広い地域に存在していると海軍第二部のハント少将に助言した。

爆発中心から白熱したガスが地上に到達したとする証拠は見つけられていない。爆心地では木や杭や燃え残った木片や路上の車等が放射エネルギーだけで焦げていることを示している。数人見つかったしかるべき能力のある観察者達 (The few competent observers found) は、爆風より一定の瞬間前に光と熱が来たことに同意している。黒い面、防護物、生存者が負った火傷等の多数の証拠によって放射エネルギーが非常に高い強度だったことが示された。建っているビルのすべてで電気回路短絡の局所的証拠を調べた。爆風の15分から2時間後に火災が始まったと観察者達は言う。手に入る証拠だけから判断すると火災は二次的な原因で始まった。爆心から約1500mのある場所は浦上の東側の谷にあり、山が人々をガンマ線から防いだ。多くの重篤なガンマ線傷害による後期症例の多くは2000m以内で見ついている。中程度の傷害は2500mである。1500m以上では赤外線による火傷は非常に少ない。

長崎の行方不明者総数は3万人とされているが、1339人の死亡証明書しか実際には出されていない。最終データがすべて入れば、更に1万人から1万5000人が行方不明ということになるだろうと考えられる。以前の正確な数字は手に入らないけれど、谷にあって破壊された地域にはおそらく12万人の人口があった。全傷害者はおそらく4万人近いと推測される。他の重篤な傷害がないガンマ線傷害は約5000人。これらの患者を見ればほとんどが火

傷や切り傷等の傷害がある。前に報告したように、骨髄の再生に障害があるために後から症状が現れたり、死亡する症例がある。重篤な熱火傷の人が多く病院におり、二次感染や疲労、栄養失調で死亡してしまう火傷の症例は今やガンマ線傷害死よりも多くなっている。日本の合同の病院に障害者が収容されており、その割合は大体火傷3に対しガンマ線傷害1になる。

長崎市内およびその周辺のどこにも危険な量の放射線は存在しないとウォレンは無前提に言っている。天候が許せば10月12日頃にはウォレンが発った後、彼のグループを引き継ぐ部隊をGHQのオーターソン大佐が率いている。現在、海軍軍医総監部からシールズ・ウォレン大佐とその部隊が佐世保に来ており、長崎と広島放射線障害に関して短期の医学調査をおこなう予定である。医学校には500ポンド(225kg)爆弾の穴が6つ見つかかり、3発が命中している。おそらく乾ドックの区域には10個ほど、三菱の鑄造工場には2つほどの爆弾の大穴があり、いずれも8月1日の爆撃の結果であり、建物や屋根に激しく局所的な被害や大穴をつくっている。500ポンド爆弾の被害は原爆による他の破壊の中ではちっぽけに見える。このように長い期間が経った後ではドックに波の被害があった証拠は見られない。ヤングス大尉がケイシー・ブライト・ウィルソン(Kasy Bright Wilson)からのデータ要求に対し、構造物の崩壊により大勢が殺された建物において正確な測定をしている。オフトジー大將(Admiral Oftsie)の部隊は3日間地域の調査をし、我々の部隊から交通手段等の支援を受けた。通信、交通、言語障壁、天候はすべて悪く、調査の支障になっている。

10月5日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (From Newman)
To: War Department Message Center (グローブスへ)

最終報告の図解および仕上げとして、拡大写真および映画が得られた。すべての現像及び未現像フィルムとプリントはGHQの通信隊によって調査団に保管されつつある。ワシントンでの最終的な仕上げには、当該事例の収集を指揮した経験のある写真家のアドバイスと援助がどうしても必要である。こちらのGHQ通信隊将校はこの人物を送り出すのに反対はしない。早急に、ワシントンから Kurt S. Kaszner(住所等略)に関して、米本土からの通信指令を正式に出してほしい。彼は第一技術サービス部に所属する必要はないが、マンハッタン工兵区に所属する必要がある。マッシューズ大佐と共に10月8日頃出発する。

ハロルド・フェア

承認

ニューマン

10月6日

From: WASHINGTON
To: CINCPAC ADV (Pass to Newman Atomic Bomb Mission SOSO Personal from Groves)
N: WX 73416 5th

貴官の051129付けCA52800の、貴調査団と一緒に働くに経験ある写真家に関して、AGOが24時間以内に・・・・・・に指令を出す。 (*後略)

10月6日

From: COMAPAIEGRP 22
To: CINC AFPAC ADV
N: 041518/Z

長崎グループ全員が指示通り、10月6日の朝早く大村海軍病院を出発準備ができ、搬送を待っている。Pass to 東京のGHQ原爆調査団グループ、ニューマン将軍への情報。
Action to Col. Warren

10月7日

From: COM TRANS 16
To: CINCAFPAC ADV (Pass to Newman)
N: 071255 I

列車で広島を10月7日0700時に発った。東京に10月9日0700時到着。

フリーデル

10月8日

From: GHQ CINCAFPAC ADV (From Newman)
To: War Department Message Center

12人プラス McClenahan、Nininger の全長崎班が、軍事上の問題によりテニアン経由で本土に向けて10月7日に東京を発った。この班はバーネットが指揮し、ハミルトン基地到着時にオークランドにいる King と連絡を取る予定。Nininger 中尉はワシントンに行く。Newman 将軍は、代えることもできるそれらの人々の21日間の遅れを承認するよう薦めている。McClenahan はそうした離脱を拒否している。

新件：テニアン経由本土向けは今日東京を発った。Newman 将軍、Wilson 大佐、Doughleday 大佐、Furman 少佐、Uanna 少佐、およびすべての CIC の人員。部隊全員で12名。Uanna がオークランドの King に CIC 用の休暇に関して連絡を取る。・・・

新件：広島グループは作業を完了し、現在東京への途上である。・・・

ハロルド・フェア

承認 ニューマン

10月10日

From: CG 6TH ARMY (第6軍)
To: CINC AFPAC ADV
N: K-10621

以下の情報を第五上陸部隊(?)より受け取った。長崎の原爆のとき、爆弾の放射線の強度を測定するために、真鍮のシリンダーがその地域にパラシュートで落とされた。シリンダーは見つかり、佐世保工廠、そして今は米海軍情報チームで保管されている。書面の報告は後ほど。

10月10日

マンソン大佐への覚書 G-2, GHQ AFPAC ADV
CA 54894

1. 原爆調査団 (A B M) が米国に戻るとき、原爆に関する医学的データ編纂の助けのために、2人の日本人医師を米国に送るよう陸軍省への要請がなされることが企画されている。

これらの人物は： 都築正男博士、本橋均博士
東京帝国大学医学部外科

2. 都築博士の自宅の電話番号は……。2人ともこれらの計画については承知しており、輸送が最終的に承認されたらあなたから連絡があると予想している。

De Silva

10月11日

日本における原爆効果調査のための合同調査団について、第6軍への通達書 (*未訳)

10月11日

To: War Department メッセージセンター (グローブスへ)
From: GHQ CINCAFPAC ADV(ウォレン大佐より)

フリーデルは広島での6日間の集中的調査を終え、多くの価値あるデータを得て、列車で出発した。・・・は山津波で閉鎖された。天候が悪く広島グループを東京に足止めしている。あと数日は悪天候の予報。フリーデルは広島で、爆心直下でバックグラウンドの8-10倍、残りの地域で2-4倍の放射能を発見した。また、3キロメートル南西でバックグラウンドの2-3倍という日本人物理学者の発見も確認した。臨床的資料は殆ど残っておらず、ウォレンはGHQのオーターソン大佐と正式な日本人の原爆調査団と共に南西(?)へ行く旅を手配した。(この日本調査団は)5つの大学の医学および物理学者グループ、さらに政府の工学、農学、陸軍グループを含んでおり、彼らはすべてのデータと書面報告を11月15日頃我々に提出する予定である。CA53113

ハロルド・フェア

承認 De Silva

10月11日

無線ファイルのための注意書き (Note for Radio File)
Note for File: 334 Atomic Bomb Mission
From: CINCAFPAC ADV RAD: CA53113
To: WD メッセージセンター

件名：広島での放射能 ゼロ地点の真下、バックグラウンドの8-10倍。残りは2-4倍。

Document filed under No. 334/5 ATOMIC BOMB MISSION

10月12日

日本における原爆効果調査のための合同調査団について、第8軍への通達書 (*未訳)

* 10月12日~11月7日の電文 未訳

11月11日

件名：合同原爆調査団のメンバーである日本の民間人を、調査団の報告書編纂への助力のため米国に
入国させることの許可

To: ファレル准将へ

1. 日本における調査団の作業は1945年12月1日頃までには完了の予定。1万2000－1万5000人の患者のデータが集まる予定。さらに150例以上の剖検の記録と試料および大量の日本人の報告を入手。日本人の報告は、データの翻訳と整理のために日本人科学者の助けを必要とする。
2. ウォレン大佐は、私が帰国するときデータと試料と共に都築博士と本橋博士を連れて行くことを提案した。彼は、彼らの米国への入国が許可されるよう、貴官のグループが国務省と申し合わせてくれるだろうと言っていた（同封1を参照）。そのような申し合わせはなされているだろうか？
3. 日本の学術研究会議は、都築博士と共にこの作業に参加していた3人のアシスタントを送ることを望んでいる。本橋博士がこれに含まれていないのは、彼の健康がすぐれないということと共に、他の人々の専門性と英語力が優れているということのためである。日本学術研究会議は、必要な費用を調達する予定である。国務省が何人の日本人の入国を許可するかわからないが、以下がその優先順である。
 1. 都築正男
 2. 村地孝一
 3. 三宅仁
 4. 中尾喜久
4. 3人全員が都築博士に同行しなければならないというわけではないが、作業量はかなりのものがある。人員が多いという障害があるなら、都築博士だけでも入国させるための努力が行われるべきと強く主張するものである。日本人はこの研究に最大限の協力を示したし、我々の自由になるすべての記録と試料を提出した。都築博士は、他の日本人科学者の代表として、そしてこの研究における彼らの仕事の解釈においても非常に貴重な人物であり、この研究を成功裡に完成させるためには彼を米国に存在させることは必要欠くべからざることである。他の3人の若手もそれぞれの専門性において有能であり、若い科学者の進歩的なグループを代表するものである。
5. 原爆に関係する問題で働いてきた他のグループのすべてが12月にワシントンに戻りつつあり、報告書を書くのに参加する人々をワシントンで利用できるのは1946年の1月頃になると予想される。我々は1945年の12月1日の短時日後には日本を離れることが予想されるので、可能であればこの日付前に無線で返答をいただきたい。

A.S.オーターソン
軍医団 大佐

同封：上記のとおり

米国に行く可能性のある原爆合同調査団の推薦されている日本人代表
都築正男 医学博士 (東京帝国大学医学部)
東京帝国大学医学部外科学教授

村地孝一 理学博士（生物学）（東北帝国大学理学部）
東京帝国大学医学部 放射能研究所助手
三宅仁 医学博士（東京帝国大学医学部）
東京帝国大学医学部病理学助教授
中尾喜久 医学博士（東京帝国大学医学部）
東京帝国大学医学部 外来（佐々博士）助手

日本学術研究会議が米国滞在に必要な経費を調達する。
（添付、合同調査団についてのGHQの指示書）

11月11日

軍医部

件名：合同原爆調査団のメンバーである日本民間人が調査団の報告書編纂の援助として米国に入国する許可に関する陸軍省への無線による質問

To: 軍医部 GHQ AFPAC(マニラ)、APO 500

1. “日本における原爆効果研究のための合同調査団”は3グループから構成されており（同封1参照）、その1つは日本政府のメンバーでできている。この調査団は主に負傷者の研究に関連した原爆の効果に関わっている。爆弾の効果の初期の観察は、必然的に日本人によって行われた。日本人はこの研究に最大限の協力を示したし、すべての記録と試料を調査団が利用できるようにした。時間と人員の制限で、これらの報告の全部を翻訳することができなかった。さらに、すべての報告を、その後の知識に照らして再検討しなければならない。これらの報告の十分な価値を実現させるために、日本人の協力と助力が必要である。
2. 現在米国に戻っているファレル將軍下のマンハッタン計画グループは、日本人のデータの研究と編纂を助けるために2人の日本人を米国に連れて行くことが望ましいということを薦めた（同封2参照）。この作業において調査団を助けるために、日本人の米国への一時的入国について対処できるかもしれない国務省とこの件を討論というのは、彼らの意図であった。これまでのところ、国務省からもマンハッタン計画グループからも何の言葉も受け取っていない。
3. 日本における調査団の現在の作業は1945年の12月1日頃完了する予定であると予想され、さらにワシントンからその後何も言っていないので、無線を陸軍省に送ることが望ましい（同封4参照）。この本部であるG-2は相談を受けており、日本での調査団の管轄部門であったので、軍医部から無線を送ることが望ましいというのが、彼らの意見である。
4. この無線を送ることにあなたが同意するかどうか、無線で返答してくれるよう望む。

アシュレイ S. オーターソン
CA 54894

（4名の日本人のリスト）

11月17日

From: CINCAFPAC ADV

To: WARTAG

(Attention ファレル少将とスタフォード・ウォレン大佐)

原爆調査団の医学部分は完成に近づいている。(CA54894 *10月10日) オーターソン大佐は最終報告の準備に関連して日本人の報告の助けとして日本の都築博士が米国にすることが必要であると信じている。もし貴官が同意するなら、都築博士が米国に入国しあなた方の司令部を旅することができるよう、国務省および他の適切な民間及び軍当局との必要なすべての手続きを行うよう求める。

ハロルド・フェア

承認

Clarks H. BARNACLE

軍医部 中佐

11月22日

From: Washington (Personal from Farrell)

To: CINCAFPAC ADV (Oughterson)

N: W 84358

貴官の11月17日付無線 CA 54894及び11月11日付手紙の件で、ウォレンはアドバイスを受けている。日本人について必要な同意書と手配書を送るつもりである。詳細は検討中。

グローブス

11月27日

From: Washington (From Groves and Farrell)

To: CINCAFPAC ADV (For MacArthur attention Oughterson)

N: W 85400

日本の科学者、都築、村地、三宅博士らを原爆合同調査団の報告編纂の手伝いのために米国に連れて行くという、貴官の無線 CA54393および11月11日付の貴官の手紙に関して。

G-2は、科学者たちは法的には戦争捕虜 (POW) と分類され、オーターソンの配慮によって我国に連れてこられたとすることを勧めている。

科学者たちを戦争捕虜と分類すると、我国内での待遇方法に何の責任も持つ必要がない。科学者たちを我国に連れてくるのに、もし別の方法をとろうとすると、深刻な遅れと不都合な世間の注目が持ち出されるかもしれない。オーターソンは、サンフランシスコあるいは入国する港での責任から解放され、そこでマンハッタン管区の人員が科学者たちを引き受け、輸送手段を手配し、目的地までガイドしていく。このプランは実現可能性があるか？オーターソンは上記の手配でこの科学者たちを米国に入国させることが好都合であると考えるか？

12月4日

From: CINCAFPAC ADVANCE
To: WARCOS (JOINS CHIEF OF STAFF)

W85400は3人の日本人科学者を米国に連れて行くことを要請している。CA55590。
この時点での日本人の米国への輸送は基本的な原則に関わるので、指示が必要である。

アレン

12月6日

From: Washington
To: CINCAFPAC ADV
N: W 87096

CA55590 W85400で行った提案はキャンセルされる。

WARCOS

*Note: CA55990.12月4日付。
W85400は、3人の日本人科学者を米国に入国させることを
要請している。この時点での日本人の米国への輸送は基本的な
原則に関わるので、指示が必要である “*

配布 参謀本部、G-1, G-2, G-4, AG C Surgeon